

[研究ノート]

中国の心理健康教育

The Mental Health Education in China

山 田 美 香

Mika Yamada

Studies in Humanities and Cultures

No. 25

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 25号
2016年1月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY
NAGOYA JAPAN
JANUARY 2016

[研究ノート]

中国の心理健康教育

The Mental Health Education in China

山田美香
Mika Yamada

要旨 本稿は、中国の心理健康教育（児童生徒への心理的なケアをする教育）について、多くの中国の先行研究をまとめ、具体的にどのような課題があるのかを紹介したものである。「小中学心理健康教育指導綱要」の心理健康教育の定義、「健康教育」「品德と生活」「品德と社会」「思想品德」と心理健康教育の違い、また心理健康教育が思想政治教育から始まった点、教師・教材について課題を明らかにした。

キーワード：心理健康教育、小中学健康教育指導綱要、小中学心理健康教育指導綱要、課程標準

はじめに

本稿は中国の小中高校生の精神的な成長発達を支える心理健康教育について、主に先行研究、中国政府の教育部ホームページ等を用いて、現在の心理健康教育の課題を明らかにするものである。

先行研究は、中国知網（CNKI）で検索すると、5万篇ほどの論文を見ることができる。国家、各省級の雑誌、大学紀要、民間の雑誌等を含めて教育現場における実践記録を中心とした論考がある。特に、大学における心理健康教育の論文が大変多い。

日本では心理健康教育について、劉童、金龍哲、白佐俊憲が北京の高校・大学について論じている¹。金龍哲は、2002年「小中学心理健康教育指導綱要」の紹介、心理健康教育機関の設置について検討をしている²。

¹ 劉童「大学生のメンタルヘルスに及ぼす心理健康教育の効果：日本と中国の比較」『別府大学臨床心理研究』7、2011年、pp. 25-29。金龍哲「世界の生徒指導事情(7)中国(1)『夏キャンプでの対決』の波紋—中国における『心理健康教育』の論理」『月刊生徒指導』34(12)、2004年、pp. 44-48。白佐俊憲・于桂玲「中国の中学校における心理健康教育の実践—北京市・21世紀心理教育学校（徐悲鴻中学）」『北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要』(40)、2002、pp. 15-32。白佐俊憲・葛文君・張麗霞〔他〕「中国における大学生への心理健康教育」『北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要』(40)、2002年、pp. 1-14。

² 金龍哲「世界の生徒指導事情(7)中国(1)『夏キャンプでの対決』の波紋—中国における『心理健康教育』の論理」『月刊生徒指導』34(12)、2004年、pp. 44-48。

心理健康教育は上海が中国全土に先駆けて行われたが、博士論文に上海の心理健康教育をまとめた趙鑫³以外に、王道陽が、心理健康教育の歴史について、次のように語っている。

王によると、1988年12月「中共中央關於改革和加強小中学德育工作的通知」「児童生徒の道徳情操、心理の質に対して総合的な養成と訓練をしなければならない」というのは、「現在発見できる最も早い一種の心理健康教育の提案である」⁴という。つまり、1988年に中央の文書において心理健康教育が明文化されたと言っている。さらに、「1994年8月、『中共中央關於進一步加強和改进学校德育工作的若干的意見』で、初めて正式に心理健康教育の言葉が使用された」⁵という。一方、「1950年代に台湾、1960年代に香港特別行政区の心理健康教育が起こり、台湾、香港の心理健康教育はそれぞれ特色がある」⁶というように、各国、地域において心理健康教育に大きな変化があり、中国大陸の心理健康教育は台湾・香港の輔導（ガイダンス）を念頭に実施したことが分かる。アメリカ、イギリスの影響が早くからあった台湾・香港のカリキュラムに輔導が入ったのは、戦後の台湾におけるアメリカ教育の影響、イギリス植民地であった香港の状況を考えると至極当然のことであった。中国の心理健康教育の開始は他の国・地域に遅れ、後発的に中国独自の社会主義心理健康教育が推進、深化した。

このことについて黄向陽・王保星は、「我々が論じる生徒の支援・指導は、世界各地で異なる用語が使用されている。アメリカでは先にガイダンス、のちにカウンセリング、フランスではオリエンテーション、日本では生徒指導・生活指導、中国各地でも同じものはなく、大陸では指導、香港では輔導、台湾では『輔導と諮商』と称する」⁷と紹介している。世界各地で名称が異なると同時に、そこにおける教育の制度設計も異なり、「ある種の微妙な差異を暗示し、いわゆる指導概念の内なる変化を示している」⁸と述べている。中国の心理健康教育に対応する名称も、その歴史的背景、教育内容と関係している。

さて、中国の心理健康教育は、日本の学習指導要領に相当する「課程標準」の規定がなく、「心理健康教育指導綱要」にその教育の理念・目標・内容等が記されている。必修科でありながら、「課程標準」の規定がないため、授業時間数、教科書も担保されたものがないといえる。

既に述べたように、中国では上海で1980年代に心理健康教育が実施され、既に20年以上の実績があり、現在では心理健康教育の拠点的なセンターに加え、学校に心理健康教育の専門の教師が駐在する。特に心理健康教育の拠点センター、拠点校には心理健康検査室や専門的な心理健康教育の教師（心理教師）が仕事をしている。

現在、中国において心理健康教育は上海に限らず中国全土で実施され、教職員と心理健康教育

³ 趙鑫「上海中学心理健康教育20年」、华东师范大学博士論文、2007年。

⁴ 王道陽『学校心理健康教育 课程原理与操作』安徽师范大学出版社、2014年2月、p.2。

⁵ 同上。

⁶ 同上、p.66。

⁷ 黄向阳・王保星主編『普通高中学生发展指导 实践案例集』华东师范大学出版社、2014年、p.22。

⁸ 同上。

の教諭が協力して活動を行っている。そこで本稿では、中国の先行研究に倣いつつ、今後の日本における児童生徒支援の参考となる議論をしたい。

心理健康教育の定義

2012年改訂「小中学心理健康教育指導綱要」には、以下のように心理健康教育を定義している。

「小中学の心理健康教育は、小中学生の心理的素質を高め、その心身の和諧的発達を促す教育である。さらに小中学の德育工作を強化推進し、全面的に素質教育を進める重要な教育である。

指導思想については、その筆頭に「1. 小中学心理健康教育工作の展開は、必ず中国特色の社会主義の偉大な旗を高く掲げ、鄧小平理論、3つの代表の重要な思想、科学的発展観を指導とし、社会主義の核心的価値体系を実践することを学び、党の教育方針を貫徹し、『徳で人を樹てる、人を育てる』を本とする」と掲げられ、その次に、「個々の児童生徒の心理的な健康を図るものだ」と明記されている。

つまり、心理健康教育は、明らかに社会主義的価値観を優先した教育と定義しているために、以下に述べるように、現場で心理健康教育が政治思想教育であるとの誤解や、政治思想教育であるならばその評価を試験で行う必要が出てくるのである。

また「小中学心理健康教育指導綱要」には、「学校教育における德育の遺産を生かして」という文言もあり、德育と心理健康教育の差異が明確でないことから現場では大きな混乱も生じた。

「教育部2015年工作要点」（2015年2月）には、「小中学の德育の強化推進」が書かれているが、そのなかで「小中学心理健康教育モデル区建設の推進」とあり⁹、教育部において、心理健康教育が德育に含まれると考えられている。「四川省教育厅2015年工作要点」の「小中学德育工作の強化」でも、「優秀な伝統文化教育、公民意識教育と心理健康教育を強化し、小中学生が中華伝統の美德の教育実践活動を展開する」と、德育で心理健康教育を強化することが書かれている。四川省では、年度ごとの重要目標として、「德育の強化」を掲げ、そこで「公民教育」と「心理健康教育」を強化するという小目標を立て、中華民族としての教育と心理健康教育が融合した教育が行われた¹⁰。

心理健康教育と他の領域、健康教育

ところで、心理健康教育と小学の領域「品德と生活」「品德と社会」、中学の領域「思想品德」教育との違いは、心理健康教育は児童生徒が社会生活を送るうえで必要なコミュニケーション能力を高めることに主眼が置かれていることである。しかし、各領域の「課程標準」との重複感は否めない。

⁹ http://www.moe.gov.cn/srcsite/A02/s7049/201502/t20150212_189347.html 閲覧日2015年10月16日。

¹⁰ 中共四川省委員会教育工作委員会「四川省教育厅2015年工作要点」閲覧日2015年3月3日。
<http://www.scedu.net/open/web/1425362696.shtml> 閲覧日2015年4月15日。

また、心理健康教育は、「健康教育」の分野でも行われている。教育部「小中学健康教育指導綱要」（2008年12月1日）は、「中共中央国務院青少年の体育科、青少年の体質増強に関する意見」を实行するため制定された（小中学健康教育基本要求」は廃止）¹¹。

小中学の健康教育の内容は5領域で、「健康的な行為と生活方式」「疾病予防」「心理健康」「成長発育と成長期の保健」「安全な応急処置と避難」と、健康教育に心理健康教育も含まれている。健康教育は、每学期6-7時間を計画し、主に「体育と健康」で行い、小学では「品德と生活」「品德と社会」、中学の「生物」などの教育内容と結合させるべきだとした¹²。

以下は、「健康教育指導綱要」のなかの心理健康教育の部分を抜粋したものである。

（表1）2008年「小中学健康教育指導綱要」小学・中学の基本内容

小学1-2年	日常生活で礼儀ある言葉、同級生と仲良くする。
小学3-4年	なし。
小学5-6年	自信を持ち、自分のことを自分でする。
中学	よくない情緒の健康に対する影響、情緒を調整する基本的な方法、自我の認識の建立、客観的に自己を認識・対峙する、自己の学習能力と状況によって合理的な学習目標を定める、異性との交遊の原則。
高校	合理的に自分の心の問題を出し、洗いざらし話す方法、客観的にものに対する方法、人との交友の原則方法、主体的にまじめに公平に謙虚に寛容に人と交友関係を作る。ストレスがないようにするための基本的な方法、競争の積極的意義を認識し、失敗と挫折に対し、試験等特殊な時期によく見られる心理問題に正確に対峙する。

出典：http://www.moe.gov.cn/srcsite/A17/moe_943/moe_946/200812/t20081201_80266.html

閲覧日2015年10月20日。

（表2）2012年改訂「小中学心理健康教育指導綱要」の心理健康教育（小学・中学）に関する内容

<p>小学1-2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童のクラス、学校、日常の学習生活環境と基本原則の認識を手伝う。 ・ 初歩の知識を学習することを楽しいと感じること、重点的に学習習慣の養成と訓練を行う。 ・ 児童が礼儀正しく友好的な交流ができるよう養成。楽しく先生、同級生と交流し、謙遜、友好的な交流のなかで友情を感じる。 ・ 児童に安全・帰属感を持たせる、初歩の自己統制を学び、児童が新しい環境、集団、学習生活に適応するよう手伝う。 ・ 紀律、時間、規則の意識を樹立する。
--

¹¹ 教育部「小中学健康教育指導綱要」（2008年12月1日）。

http://www.moe.gov.cn/srcsite/A17/moe_943/moe_946/200812/t20081201_80266.html 閲覧日2015年10月20日。

¹² 同上。

小学3－4年

- ・自我を理解し、自我を認識することを手伝う。
- ・児童の初歩の学習能力、学習の興味と探究精神を持たせ、自信を持たせ、楽しく学習する。
- ・集団の意識を樹立し、同級生、先生とよく交流し、自主的に各種活動に参加する能力を養成する。
- ・明朗で、集団生活に馴染み、自律した健康な人格となる。
- ・児童が学習生活のなかで困難を解決することを喜びと感じるよう指導し、情緒とは何か、自分の心を表現することを学ぶ。
- ・児童が正確な役割意識を持つことを手伝い、時間の管理意識を強め、児童が正確に学習、趣味、娯楽の問題を処理することを手伝う。

小学5－6年

- ・児童が正確に自己の優秀さ・欠点と趣味を認識することを手伝い、各種活動のなかで自分を受容してもらえるようにする。
- ・児童の学習の興味と学習能力を養成し、学習動機を正し、学習態度を調整し、正確に学習に対峙し、学習の成功体験を楽しみとする。
- ・初歩の性周期の教育を展開し、児童が適当な異性交流を進め、良好な異性との関係を作り維持し、人間関係の範囲が拡大するよう指導する。
- ・児童の学習困難を克服することを手伝い、正確に学習が嫌だという負の情緒に対峙し、児童が正しく正確に情緒を体感し表現する。
- ・積極的に児童の社会的行為を促し、徐々に自己と社会、国家と関係を認識する。
- ・児童の問題分析と問題解決の能力を養成し、中学生の段階の学習成果のため準備をする。

中学

- ・生徒の自我認識を強化する、客観的に自己を評価することを手伝う、思春期の生理の特性と心理の特性を認識する。
- ・中学段階の学習環境と学習要求に適応し、正確な学習観念を養成し、学習能力を発展し、学習方法を改善し、学習効率を高める。
- ・先生と父母と積極的にコミュニケーションをとる。
- ・異性との交遊の尺度を把握する。良好な人間関係を建立する。
- ・生徒が積極的に情緒を体感し表現するよう励ます。有効に自己の情緒を管理し、学校を嫌がる心理を正確に処理する、衝動的な行為を抑制する。
- ・進学選択の方向を把握し、職業意識を養成する、早期に職業の発展目標を樹立する。
- ・徐々に生活と社会の各種の変化に対応し、失敗と挫折に対峙する能力を養成することを重んじる。

出典：http://www.moe.gov.cn/srcsite/A02/s7049/201502/t20150212_189347.html

閲覧日2015年10月16日。

(表3) 2011年「品德と生活」「品德と社会」「思想品德」の課程標準における総目標、目標

<p>小学1-2年 「品德と生活」</p>	<p>総目標 良好な品德と行為習慣を養成し、探究を楽しみ生活を愛する児童を養成する。</p> <p>目標</p> <p>1. 感情と態度 (お年寄りを敬い、集団・家郷・祖国を愛する。生命・自然を大事にする。自信向上、誠実勇敢、責任を持つ。手・頭を動かすことを喜び、想像・創造を楽しむ)</p> <p>2. 態度 (初歩の良好な生活、衛生習慣を養成する。基本的文明の行為習慣を養成する。労働と意義ある活動に参加することを楽しむ。環境保護、資源を大事にする)</p> <p>3. 知識と技能 (自身の生活に必要な基本的知識と基本的技能を掌握する。友達と友好関係を持ち協力する基本的的方法技能をもつ。初歩の探求能力を備える。生活のなかの自然、社会の初歩の常識を理解する。関連する祖国の初歩の知識を理解する)</p> <p>4. 過程と方法 (体験は生活の中の問題を提出し、問題を探究、解決する過程、初歩の体験と社区と社会生活との関連についての学習過程である。幾種の簡単な調査研究方法を学習し、応用を試みる)</p>
<p>小学3-4年 「品德と社会」</p>	<p>総目標 良好な品德と行為習慣を養成し、探究を楽しみ生活を愛する児童を養成する。</p> <p>目標</p> <p>1. 感情、態度、価値観 (生命を大事にし、生活を愛し、自尊・自立、楽観的向上心、勤労質素な態度を養成する。お年寄りを敬い、文明礼儀、誠実守信、友愛寛容、集団を愛する、団結協力、責任ある心を養成する。規則に対する初歩の意識、民主・法制の観念、公平、公正を大事にする。家郷を愛し、祖国の歴史と文化をみて、中華民族の帰属感、誇りをもつ。異なる国家と民族の文化的差異を尊重し、初歩の開放的な国際的視野を形成する。自然を愛する感情を備え徐々に生態環境を保護する意識を形成する)</p> <p>2. 能力と方法 (安全、健康で環境保護を考える良好な生活と行為習慣を養成する。初歩の自我の認識、自己の情緒と行為を調整する方法を学ぶ、はっきりと自己の感情と見解を表現し、他人の意見を傾聴し、他人の心情と必要を分かり、他人と平等に交流、協力し、積極的に集団生活に参加する。異なる角度から社会事物と現象を学習し、生活の中にある道徳上の問題に対して正確な判断、合理的な試み、創造的な探究をし、生活上の問題を解決し、つとめて社会の公益的な活動に参加する。初歩の情報を収集、整理、応用する能力を掌握し、適当な道具と分析方法を用いて問題を説明することができる)</p>

	<p>3. 知識</p> <p>（日常生活の中の道徳的行為規範と文明的な礼儀を理解し、未成年の基本的な権利と義務を理解し、規則法律がそれぞれの人の権利を保障し社会の公共生活を維持することに重要な意義を持つことを理解する。生産、消費活動と人々の生活の関係の初歩を理解し、科学技術の生産と生活に対する重要な影響を知る。基本的な地理の常識を知り、人と自然、環境の初歩の相互依存関係を理解し、人類共同で臨むことになる人口、資源、環境等の問題を理解する。家郷の発展変化を理解し、我が国の歴史の常識を理解し、歴史の発展過程の中で形成された中華民族の優秀な文化と革命の伝統を知り、我が国の発展に重大な歴史的イベントと社会主義建設の偉大な成就が影響したことを理解する。世界史の発展における重要なイベントの初歩を理解し、異なる環境下で人々が異なる生活スタイルと風俗習慣があることを知り、異なる民族、国家と地区の相互の尊重、和睦に重要な意義があることを知る）</p>
<p>中学 「思想品德」</p>	<p>総目標</p> <p>本課程は、社会主義の核心的価値体系を指導し、中学生が正確な思想観念と良好な道徳品德を形成、発達させることを促し、生徒に理想・道徳・文化・規律ある「合格公民」となることを基礎と定める。</p> <p>分類目標</p> <p>（一）感情、態度、価値観（生命を愛し、自尊自信、樂觀向上、意志堅強。自然に親しむ、環境保護、資源を大事にする、勤儉節約。父母を敬い、他人を尊重し、誠実守信、楽しんで人を助ける。労働を愛し、実践を重んじ科学を尊び、勇んで新しいことをする。規則法律を守り、公正を追求し、自主自立、公民意識を強化する。集団を愛し、あえて競争をし、よく協力し、奉仕精神をもつ。祖国、平和を熱愛する）</p> <p>（二）能力（自己の情緒を調整し、自我の調整、自我のコントロールができる。環境保護の基本的な方法が分かり、環境保護を行う習慣を養成する。人と関わりコミュニケーションをとる。技能を徐々に掌握し、社会公共生活に参加、運用する方法を学び応用する。初歩の社会生活の複雑さを認識理解し、正確な道徳判断と選択ができるようにする。法律の意義を理解し、自分を守る法律の初歩の運用ができ、合法的な權益を維持する）</p> <p>（三）知識（青少年の心身の発達の特徴を理解し、心身の健康的な発達の道を促し、個体の成長と社会環境の関係を認識する。私と他人、私と社会、私と自然の道徳的規範を理解する。基本的な法律知識を知り、法律の基本的作用と意義を理解する。わが国社会主義初期段階の基本的な国情、国策を理解し、全面的な小康社会建設になるための新しい要求を実現し、現在の世界の発展状況の初歩を理解する）</p>

出典：「品德と生活」「品德と社会」「思想品德」は、日本弘道会・日本道徳教育学会編『近代日本における修身教育の歴史的研究—戦後の道徳教育までを視野に入れて—』第四章第二節「アジア諸国における道徳教育」「中国の道徳教育」（山田美香）、pp384-385より一部修正抜粋。

以上のことから、心理健康教育は健康教育、各領域との連携も含まれ、この複合的な性格が心理健康教育の特徴と言える。

また、心理健康教育は、全国的な「課程標準」ではなく、各地方や学校で独自の教育を行うカリキュラム（地方課程、学校課程）で行うものであるため、教科書がない。各自治体・学校の心理健康教育へ関与、制度設計がいかなるものかによって、児童生徒が受ける心理健康教育の質に大きく影響している状況があった。しかし、一方で、呂玉は、「ある学校は、心理健康教育は語文、数学等学科課程と同じで、学科として開設し、固定の教材、授業時間、教育計画があり、甚だしくはある学校は期末試験も行う。この種の知識伝授の学科化の傾向は、まさに生徒の心理健康を促すことができないばかりか、生徒の持続的発達に不利である」と、「課程標準」がなくても、他の領域との関連で、心理健康教育が他領域と同じように学科として開設されていることを批判している。

心理健康教育と政治教育

黄向阳・王保星は、「政治思想指導は我々の特色と伝統で、学校心理輔導工作と同じではない。しかし、長期、我々の児童生徒の指導は独立した学校教育における職務ではなく、教室における多くの教育の延長で、児童生徒管理の付属物であった」¹³と述べている。つまり、これまで生徒指導（学校心理輔導工作）は政治思想教育により行われていたきらいがあるが、政治思想教育与同じものではなかった。

しかし、周泉・张承坤によると、中国の心理健康教育の発展は、思想政治教育から発展しトップダウン式で実施が進められてきた¹⁴という。「政教処は、早く党訓班、团訓班、幹訓班を用いて、心理輔導の内容と形式を増やした」¹⁵と、思想政治教育から心理健康教育を進めたこと、心理健康教育と思想政治教育は表裏一体であると書いている。

邓万成は、「ただし、とても多くの学校では生徒の学習能力を高めることを重視し、生徒の思想教育を無視した」¹⁶と、中国の伝統的な教育は学業成績がいい者を評価するなかで、思想政治教育でさえ十分に対応できていないあり方に大きな課題があると指摘している。

この点について、徐瑶は、「德育は生徒の教育体系の中で非常に重要な地位を占め、心理健康教育は德育の教育的地位を借り、異なる各ドアから、生徒個人の人格の完全な発達を促す」¹⁷と、德育が学校教育で重要な教育で、心理健康教育はその中に含まれるため、心理健康教育の方法で德育を行うという現在の状況を記している。そのため、「完全に思想政治教育を用いて心理健康

¹³ 黄向阳・王保星主編『普通高中学生发展指导 实践案例集』华东师范大学出版社、2014年、p. 21。

¹⁴ 周泉・张承坤「高中心理健康教育尝试」『心理研究专辑』Vol. 23、2002年5月、p. 134。

¹⁵ 同上。

¹⁶ 邓万成「浅议高中体育教育视野下的心理健康教育」『体育教学』2011年6月、p. 50。

¹⁷ 杨冰娟「探析高中心理健康教育的实施策略」『课程教育和研究』2012年11月下旬刊、p. 201。

教育の代わりとし、大きな進学圧力の下、高校生の心理健康教育は、ただ言葉だけとなっている」¹⁸と、心理健康教育が、大学受験に用いられる思想政治の科目となることを述べている。

しかし、生徒が学校生活で感じる困難はどのように解決すべきなのだろうか。心理健康教育は、徳育と一緒に議論すべきものなのだろうか。

楊冰娟は、応試教育（試験対策の教育）から素質教育へ移行した中国の教育理念を作る心理健康教育は、徳育の一環ではなく、生徒個人のための精神的成長の教育であると、その必要性を述べている¹⁹。

一般に、青年期の成長期にはどんな生徒でも心理的ケアは必要であろう。生徒の成長にとって、社会主義的な徳目の理念を注入することがどのような価値となるのか、それは中国の現状と照らし合わせつつ丁寧に分析する必要がある。

馬翠霞は、徳育と心理健康教育の相互関連について、以下のように述べている。少し長いが引用する。

有効な徳育と心理教育は密接不可分の関係で、二者は相互促進的で、心理教育は徳育からすれば和諧的教育手段で、徳育は心理教育からすれば人格発達の昇華といえる。心理教育は生徒の良好な心理の質、個性を形成するもので、良好な品德の基礎は良好な心理的素質である。これにより学校は生徒の品德教育と心理教育を有機的に結合させ、品德教育は具体的に生徒の正確な行為基準を指導すること、心理教育は生徒の心が正確な行為基準を認識するよう指導すること、自己の心理規範を内化することを重視する。品德教育と心理教育の二者が結合して、初めて真に生徒の良好な行為の形成を有効に促進することができる²⁰。

このように中国では、徳育（品德教育）と心理健康教育が有機的に関連したものと理解される。現代社会は徳育より心理健康教育に関心を持つが、どちらも一枚のコインの表裏であるにすぎないため、結局は、心理健康教育は徳育の範疇を超えられていない。

心理健康教育の位置づけ

陈韵君によると、心理健康教育の科目の位置づけは、「高校の心理健康科は、学校では副科の副科としてみられている」²¹というように、「心理健康科の内容は大学入試とは関係なく」「高校段階では重視されることは難しい」²²と述べている。また、「心理健康科は効果を出すことが難しい。評価の課題もある。一学期の心理健康教育を経て、いかに生徒の適応能力と心理の素質が高

¹⁸ 徐瑶「当前高中心理健康教育存在的问题与对策」『高考』2014年11月、p. 77。

¹⁹ 同上。

²⁰ 马翠霞「论高中心理教育的重要性」『青春岁月』2012年3月下、p. 189。

²¹ 陈韵君「高中心理健康教育的现状与对策探讨」『新教育』2011年3月、p. 30。

²² 同上。

まったかが分かるのだろうか²³というように、心理健康教育ならではの評価の課題が見られる。さらに、「多くの学校は専門職の心理健康教育の教師がいない。たとえ上級部門に教師を要求しても、検査が必要となり、他の科目の教師の兼任（大多数は政治の教師）となる²⁴と、心理健康教育教師の量的な課題、さらに政治科の教師が兼任し、その専門性が不十分で授業で成果を出せないことが問題になっていると書いている。

陳によると、授業数は、「高校で開設する心理科は、一般に、高校1年生で最も多くて1週間に1回・2週間に1回、高校2年生・3年生は活動が多く専門の講座あるいは課外活動の形式で行い、回数は少なく、時間は短い²⁵と、必修科とはいえ、高校1年生で2週間に1回程度と授業数が少ない。教員の問題だけでなく、授業時数の少なさが大きな課題となっている。

赵宇红が、心理健康教育の他領域との連携を「各学科の教育のなかで心理健康教育は行うべきで、また高校段階で心理健康教育を実施するのは重要な手段の一つである²⁶として、各領域との連携の下で心理健康教育が活かされることを述べている。

また赵は、単なる集団性授業、心理カウンセリングだけでなく、日々の個別の生徒の心理状態を測定する必要も述べている。「学校は定期的に生徒の心理測定をし、関連する心理面での資料を作り、生徒の日常的な表現、学習態度等を観察して、生徒の心理健康の状態を掌握、理解する²⁷。

教師

それでは、どのような教師が心理健康教育の教師に適しているのだろうか。

心理健康教育の教師は、「1. 心理学教育を勉強した大学・専科学校以上の学歴、2. 小中学の教員免許を持ち「小二以上」（小学二級教師以上）の職称にあった者、3. 豊富な心理教育輔導の経験、4. 関連する資格証明書を持つ者を優先、5. 心理学専門の本科の学歴、関連する教育経験を持つ者²⁸がなるが、各学校が、学歴・経験をそれぞれ持つ者を募集する。国家職業資格で「心理諮詢師」（心理カウンセラー）という資格もある²⁹。

心理健康教育の授業数が少ないことからその埋め合わせのために、「クラス担任が心理教師となるのは有効な道で、クラス担任は生徒との接触が最も多く、生徒を最も理解している。すべての学年が心理健教科を開設しているわけでない。クラス担任は高校1年生から3年生まで上がつ

²³ 同上。

²⁴ 同上。

²⁵ 同上、p. 31。「文件中に明確に規定、心理課程は学校の必修科である。中学1年、高校1年は必ず開設し、授業時間は少なくとも2週間に1回、卒業年（中3、高校3）はできるだけ開設し、授業時間数は2週間に1回あるいは3週間に1回。条件がある学校は各学年みな心理課程を開設する」。

²⁶ 赵宇红「心理健康教育在高中学生中的施策策略」『吉林教育 教研』2015年8月、p. 127。

²⁷ 同上。

²⁸ 「心理健康教育教師崗位深度解析」 <http://teacher.eol.cn/html/t/xinlijiaoshi/> 閲覽日2015年10月21日。

²⁹ 同上。「『心理諮詢國家職業標準』によって心理諮詢師は3つの等級、1-3級に分かれている。もともとの心理諮詢員、高級心理諮詢師の呼称は取り消された」（引用）。

ていくが、心理教師がクラス担任となるのは難しい³⁰と、クラス担任が心理健康教育を勉強するほうが良いとしている。

しかし、心理健康教育を教えるには専門性が必要で、趙雪江は『綱要』のもとで、心理教師は授業で自主権を持つ。教師の教育内容選択、教育の深浅の度合いの把握は、往々にして個人の経験による。これにより、中学では難しすぎ、高校では中学の簡単な重複という現象がみられる³¹とあるように、心理健康教育課程の中高で一貫性が見られず、それは心理健康教育の教師の力量にも大いに関係があるとしている。

張素珍は、現場の様子を、「ゆっくり、声が柔らかい教師が心理学の知識が全くなくても心理輔導員に選ばれ、ある学校は教師の仕事量が少ないということで心理輔導員としている」「政教処で德育工作をする教師は、長期、担任をしており、一部の教師が臨時で心理健康教育を行っていた。この人は豊富な生徒指導の経験があるけれど、専門の心理健康の知識、心理輔導技術に欠けていた³²というように、まじめに寛容に生徒に対応できる教師が心理健康教育を担当するが、その専門性は度外視されたと述べている。また思想政治教育の教師が学問的背景をもとに授業準備をするが、「ある学校の心理健康教育の全権は政治の教師にあり、課程の要求によって情緒、意思、認知等の心理学の知識を話すか、みな無味乾燥で、生徒に何の作用もなく、かえって生徒の学業負担を増やした³³と、肝心の生徒の状況には無頓着であることが述べられている。

つまり、思想政治教育と心理健康教育のどちらも社会主義的価値観を根拠としつつも、一方でそれぞれ異なる教育目標もあり、そのはざまでのように授業を展開するのか、また心理健康教育の人的資源が思想政治教育の教師に偏り、学校の人的資源の配分・配置に多くの学校が翻弄されている状況があった。

中国教育報（2012年12月20日）によると、2012年改訂「小中学心理健康教育指導綱要」は、「学校は、全教育課程で一貫して心理健康教育の専門的な教育を展開し、各教育行政部門は、学校督導評価指標体系に心理健康教育を入れ、教育督導部門は定期的に心理健康教育の専門的な検査を行う³⁴と、教育行政部門による教育評価が実施されるとされた。また、他の領域の教師が余分な仕事を引き受ける形で「兼任職」として心理健康教育に関わるより、「綱要は、それぞれの学校は少なくとも1人の専門職、兼任職の心理健康教育の教師を配置し、次第に正規職員の比率を増やし、学校でその編成を解決する。心理健康教育の教師はクラス担任と同等の待遇を享受する³⁵と、特に、心理健康教育の教師の地位をクラス担任の教師と同等とすべきことが書かれている。それは同時に、学校内で心理健康教育の教師が、入試とは無縁の科目の担当であること

³⁰ 陈韵君「高中心理健康教育的现状与对策探讨」『新教育』2011年3月、p. 31。

³¹ 赵雪江「中学心理健康教育课程内标准的研究制订」『现代教学管理』2014年第6期、p. 76。

³² 张素珍「浅析偏远地区高中开展心理健康教育课程的现状与对策」『文教资料』、2013年第30期、p. 175。

³³ 同上。

³⁴ 中国教育報、2012年12月20日。 http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/201212/t20121220_145901.html
閲覧日2014年10月16日。

³⁵ 同上。

から冷遇されていることと関係がある。

また、生徒に高い質の心理健康教育が保障されていないばかりでなく、教師にも厳しい職場環境があり、教師の心理健康教育の必要性も提言されている。

「人々は往々にして教師の教育の質を重視し、教師の家庭生活の質を無視する。教師の社会的責任を重視し、教師の家庭と子どもに対する責任は無視する。教師の犠牲的精神を励まし、教師自身の心理健康の維持を無視した」³⁶。

それでは、今後どのような教師の養成が必要とされているのだろうか。

李嵐は、次のように、一級から三級の心理導師について紹介している。

1. 一級心理導師

心理導師はクラス担任・教科担任の教師

すべての生徒・新入生は総合素質測定、心理測定を受ける

素質報告書、家庭訪問、来訪、個別の面談

2. 二級心理導師

心理導師は生徒より選ばれた最も親しみやすい、人気があり、愛すべき、忍耐強い教師

すべての生徒、特に心理測定で軽度の心理の問題がある生徒

3. 三級心理導師

心理導師は専門的な心理健康教育の教師、専門の心理カウンセラー

心理測定で中度の問題がある生徒

生徒の精神状況に照らして心理カウンセリングが行われる³⁷

关俊奇は、遼寧省実験中学では、心理健康教育の業務、家庭との連携を深めたといい、三段階の教師養成の、一級教師養成の重要性を述べている。

「1993年に、心理健康教育を正式に教育計画に入れ、心理健康教育センターを成立した」「心理健康教育とクラス担任の仕事の緊密な結合、心理健康教育と家庭教育との緊密な結合、生徒の心理面での文書の現代的な管理、教師に定期的な心理健康教育講座、新任教師に心理健康教育講座・教師となる前1カ月の養成、優秀な教師の心理健康教育の経験を互いに享受する」³⁸というように、つまりすべての教員が心理健康教育に対して最低の知識を獲得できるように制度の変革を行い、校内の人的資源開発を行った。

他の自治体でも、心理健康教育の教員養成は行われている。

成都市は、「教師の選別、学生の心理問題の指導の能力を高めるため」³⁹、2008年「『学校心理

³⁶ 张素珍「浅析偏远地区高中开展心理健康教育课程的现状与对策」『文教资料』、2013年第30期、p. 176。

³⁷ 李嵐「建设心理发展支持系统促进学生主动和谐成长」『基础教育参考』2010年11月、p. 82。

³⁸ 关俊奇「高中心理健康教育的创新与发展」『中小学心理健康教育』、p. 10。

³⁹ 「育人不忘健心 真情守护花开——成都市区域推进中小学心理健康教育的探索」中国教育報2014年6月11日、<http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s5147/201406/170088.html> 閲覧日2014年6月12日。

輔導員ABC三類資格分級認証制度』を実施し、督導型の高い層の専門的な心理教師（A級）、中心的な専門的な兼職（兼任）心理教師（B級）、クラス担任を主要な対象とする普及型兼職心理輔導員（C級）を養成することを通して、全ての教師が心理健康教育の教師隊となり、また専門的水準を高めることを行った。成都市教育局は、認証制度とクラス担任の専門化建設を緊密に結合し、『小中学班主任専門資格准入制』により、教師のクラス担任と専門資格の必要準備条件をC級資格認証とした。これによって成都市において、2.5万人のC級心理輔導員の資格詔書を得た者はクラス担任の98%を占めるにいたった⁴⁰。

このように、成都市では、ほとんどのクラス担任が市教育局のクラス単位の専門化建設に関わり、心理健康教育の資格認証を受けることになった。そのため、どのクラス担任も最低限の心理健康教育の知識を持ち、それまでの教師としてのキャリアを生かした教育を実践しているといえよう。

この状況は、浙江省でも同様で、「浙江省は5万人の心理健康教師が証明書を持って仕事をしている」⁴¹（中国教育報2011年11月29日）という。しかし比率で示すと、「全省小中学教師の16.7%が心理健康教育の証明を持っている」⁴²に過ぎない。浙江省では「2002年から全省で心理健康教師資格認証制度を開始し、今に至るまで資格を持つ教師は6万人に近い。心理輔導科の開設、心理輔導室の設立は全国でも上位に位置する。67.1%の小中学が心理輔導科を開設し、70.59%が心理輔導室を設立した。小中学心理輔導站（駅）は当地の学校心理健康教育のモデル学校」⁴³というようにである。ここから分かるように、心理健康教育は、中国ではまだ普及の過程にあることである。

中国教育報（2010年2月4日）によると、「全国レベルの人材養成は、教育部小中学心理健康教育専門家指導委員会が『全国小中学心理健康教育中心教師養成』を行い、国家級の計画で500万人の中心教師を養成し、中核的に活躍できる人材の養成を行っている」⁴⁴という。

陝西省でも同じで、農村部の中心小学以上の小学、中学では1校に1人は心理健康教育中心教師を養成する計画をした。同様に、普通科高校でも心理健康教育中心教師の養成を行い、各校に1名を養成した。

「2009年から、陝西省教育長は、全省小中学心理健康教育中心教師の市レベルの養成項目を実施することを決定した。おおむね3年を通して、全省の農村中心小学以上の学校に1校に心理健康教育中心教師を1名養成する」⁴⁵というものである。

⁴⁰ 同上。

⁴¹ 中国教育報、2011年11月29日。http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/201111/t20111129_127199.html
閲覧日2014年10月16日。

⁴² 同上。

⁴³ 同上。

⁴⁴ 中国教育報、2010年2月4日。http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/gzdt_gzdt/moe_1485/201005/t20100514_110786.html
閲覧日2014年10月16日。

⁴⁵ 中国教育新聞網、2009年2月9日。http://www.jyb.cn/basc/xw/200902/t20090209_238955.html 閲覧日2014年10月16日。

教材

王晓梅は、心理健康教育の教材について、「高校の心理健康教育には通用教材がなく、各地で教材作成は行われているものの、他の領域、科目に準じた教科書はなく、カリキュラム上、心理健康教育が重視されていないことが教材の質を上げることになっていないようだ」⁴⁶と述べて、以下の教材の紹介をしている。

・現在の小中学心理健康教育教材

- 伍新春 乔宏主编『心理健康教育』北京师范大学出版社
- 叶斌主编『小中学心理健康教育 高中学生用书』华东师范大学出版社
- 马志国主编『心灵成长导航 普通高中心理健康试用教材』水利水电出版社
- 戴耀红主编『中小学生学习心理健康教育丛书 心灵体操』同济大学出版社
- 司家栋主编『高中团体心理辅导主题方案』蓝天出版社

・読み物

- 田京生 耿增海编著『心理健康教育读本 高中版』首都师范大学出版社
- 尹朝勇主编『让青春阳光：高中生心理健康读本』西南师范大学出版社
- 俞国良主编『心理健康教育读本：高中』北京师范大学出版社

・各地の学校教材、「心理自助手冊」⁴⁷

教育部の検定教科書はないため、各地で教師が心理健康教育の教材作りをしているところも増えている。読み物資料は、中国にとっての社会主義的価値観、心理健康教育で示された徳目が内包されたストーリーである。

以下、尹鄭安・謝慧敏・尹立『中学生心理健康教育 高三上』（科学出版社、2009年）の高校3年生の心理健康教育教材の目次を紹介したい。高校の場合、高校1年生が心理健康教育必修であるので、ほとんどの3年生の生徒は心理健康教育を受けていないと考える。教材は、試験前の緊張に対峙するといった内容であり、高校3年生の時期に適当な教育であるとはいえ、試験に対応するための精神訓練の感が否めない。

第一課 選修課

第一節 生きることは一種の精神

第二節 愛と責任

第三節 女性編 “四自”精神に進む（自尊、自信、自立、自強）

⁴⁶ 王晓梅「普通高中心理健康教育校本教材结构初探」『中小学心理健康教育』2014年第4期、p. 16。

⁴⁷ 同上。

第四節 男性編 男性は強くあるべき

第二課 試験を受けるのは私

第一節 平常心で試験に対峙

第二節 試験で焦る

第三節 試験での焦りを軽減

高三下

第一課 正常な心理と異常な心理

第一節 正常な心理と異常な心理

第二節 心理の正常と異常の基本特性

第三節 高校生でよく見る心理の異常

第二課 大学受験の心理の圧力減少

第一課 試験前の心理の解析

第二課 試験前の心理調節

第三課 試験中にいかに意外な状況に適応できるか

外部との連携、行事・活動

教育部は、2012年改訂「小中学心理健康教育指導綱要」により、「小中学心理輔導室建設指南」の通知で、小中学の心理輔導室建設をさらに強化しようとした。

南京市では、学校教育だけでは教育資源が不十分であるので、学校外の民間資源を活用し、その分、公費の支出を減少し、また児童生徒にとって外部の専門家のカウンセリングも受けられるという、地域全体で柔軟に対応する教育モデルを形成している。

「南京市構建未成年人心理健康教育防護三級網絡」（2009年8月7日）によると、「南京市政府は、未成年の心理健康教育推進に力を尽くし、現在、南京市の学校心理健康教育はホットライン、専門家面接、教室における教育の『3つの障壁』を立て、『市、区、学校』の3級管理の構造で、全市651校の学校で心理カウンセリング室を建設した。これは、全市小中学総数の93%以上で、専門的な心理健康教育教師が1,882人、平均で各学校3人近くいることになる」。三段階の支援体制以外に、24時間ホットライン・ラインなどで、すぐに児童生徒の問題に、なおかつ危険性が高い児童生徒には専門家が直接介入するシステムを確立した⁴⁸。

王玉麗は、新疆ウイグル自治区搭城地区第一高級中学で、「聆心社、学校ネット、放送局、星空新聞、黒板報、心理健康教育といえる映画の放送、心の標語設計大コンクール、心理劇」⁴⁹な

⁴⁸ 「南京市構建未成年人心理健康教育防護三級網絡」（2009年8月7日）。

⁴⁹ 王玉麗 「高中生心理社団在学校心理健康教育中的探索与实践」『理論研究』2012年6月、p.113。

ど多くの行事・活動が行われていると記している。心理健康教育は、心理学・健康に関する学問的な授業だけでなく、同時に生徒の心のケアをし、なおかつ集団で行事活動に取り組むことが一般的である。しかし、中国の各少数民族地域であれば、その主眼となる心理健康教育のテーマで、漢民族と少数民族との関係の相互理解に関するものがある。

上海の心理健康教育

次に、2014年7月に参観した上海の心理健康教育について紹介したい。

上海市育才中学学生発展指導センターでは、「一人の生徒の全面的個性的な発達を主旨とし、国家の人材要求と生徒の個性、趣味、特徴及び発達の潜在的質から出発し、生徒の主体性を重視する。学業、生涯、生活の三方面に対して全面的に指導を進め、生徒が科学的に学校課程改革の挑戦に応じ、さらに生徒が、科学的持続的に成長への道を歩くよう助ける」⁵⁰として、国家と個人両方の要請から、「学業」⁵¹「生涯」⁵²「生活」⁵³の心理健康教育を行っている。三方面の具体的な学習目標は表のとおりである。またこれらの指導を支えるため、センター⁵⁴も設置されている。

(表4) 上海育才中学の指導

	学業指導	生活指導	生涯指導
高1	個性化学習の測定評価と分析	軍隊訓練体験、心理健康科の新生活を「心」から開始する	心理成長の文書を作る、生涯の人物を訪問、話をする
高2	心理健康科で最も強い脳を作る	TPC (Think, Practice, Create) 項目計画	心理健康科の生命の虹を超えて
高3	試験前指導講座	団体でリラックス、『家に受験生がいる—保護者指導手冊』	職業進学指導及び大学専門指導講座

出典：上海育才中学『为了每一个学生全面、个性化的发展』出版年不明、p.1。

高校1年生は、高校生活の出発点で心理面での発達支援、軍隊経験から精神面の強化指導を行っている。高校2年生は心理健康教育を徹底して行う。高校3年生になると受験一色となり、素質教育に移行したはずが応試教育を強調させる教育内容となっている点が、いかにも中国的と言わざるを得ない。

⁵⁰ 上海育才中学『为了每一个学生全面、个性化的发展』出版年不明、p.1。

⁵¹ 同上。「学業指導は、学習目的・態度の指導、学業計画と時間管理の指導、学習方法、試験の技術の指導、授業・科目を選ぶ指導を含む」。上海市育才中学学生発展指導センター。

⁵² 同上。「生涯指導は、キャリア教育、職業を定め就業を準備する指導、進学を方向を定め進学準備の指導」。

⁵³ 同上。「生活指導は、個性の発達指導と集団発展の指導の2つ。個性発達指導は自我概念の発達指導、興味と特徴の発達指導、学校生活の適応指導、心理調整指導等」。

⁵⁴ 同上。学生発展指導センター「キャリア教育区、箱庭区、測定評価訓練区、心身リラックス区、団体活動区、芸術創作区、自由表現区、事務室」。

しかし受験生に対する支援は中国全土で実施されており、上海市宝山区学校心理健康教育発展センターでは、「家に受験生がいる」心理救助網（ネットワーク）が作られている。

1. 各学校心理輔導室
2. 宝山区学校心理健康教育発展センター
3. 12355青少年24時間サービスホットライン
4. 華東師範大学心理カウンセリングセンター
5. 上海市精神衛生センター⁵⁵

これは、各学校、上海市各区、大学など複数の外部機関と連携し、心理面では専門家との連携を図るものである。上海市宝山区教師進修学院・宝山区学校心理健康教育発展センター『高中生心理健康自助手冊』によると、『『小中学心理健康教育指導綱要（2012修正）』と同年、上海教育出版社が『心理健康自助手冊』第三版を出版した』⁵⁶とあるように、上海市は先駆的な役割を演じている。

結論

本稿から明らかになったのは、心理健康教育が小・中・高校の学校種別の段階別に実施され、それが連続的に構成されていることである。しかし日本の学習指導要領に相当する心理健康教育の「課程標準」がないことから、教育部の通知に基づき、地域の教育局、学校独自の心理健康教育が行われている状況である。つまり、それぞれの地域、学校で心理健康教育が行われ、多様な教育状況が生まれているといえる。これらの多様な実践から、教員の質の担保やそれぞれ拠点校を中心としたカリキュラム、実践校の蓄積も見られる。

中国において社会主義的価値観を有する人材の育成は、心理健康教育でなくとも、徳育、すべての領域に渉るものである。しかし「心理健康教育指導綱要」の筆頭にそれが明記されることで、児童生徒の個々の状況に対応した支援ではなく、社会主義的価値観を有する次世代の養成に重点が置かれている。

徳育は、「課程標準」に領域「品德と生活」「品德と社会」「思想品德」があり、共産党中央による指示、教育部の通知などで、その重要性がスローガンとして強調されている。中国の学校教育では、今世紀の「課程標準」より前、徳育は思想政治教育が担っており、大変政治性が強いものであった。そのため徳育が心理健康教育を内包するため、社会主義的な思想政治教育が十分であれば、心理上の問題を克服・防止できるような考え方となっている。

⁵⁵ 宝山区学校心理健康教育発展センター、パンフレット「家有考生家长可以做什么」出版年不明。

⁵⁶ 上海市宝山区教師進修学院・宝山区学校心理健康教育発展センター『高中生 心理健康自助手冊』2013年7月、p. 3。

しかし、本来、心理健康教育が開始された目的は、個々の児童生徒の支援である。そのため、国家や各自治体における心理健康教育の理念と目的と現場の実践とのかい離は、当然続くと思われる。

また、2014年に上海で心理健康教育の中心的な学校を見た印象だが、模擬授業を見ても、近接領域や健康教育、総合実践活動と授業内容の差異が明確ではなかった。筆者が上海の中学の心理健康教育の紹介を受けた時は、学校全体で取り組む主題活動、映画観賞や遠足も含めて心理健康教育の一環だと理解されていた。心理健康教育の独自性は、唯一、心理カウンセリングや心理カウンセリングセンターの設置であると思われる。

中国の心理健康教育は、日本の道徳教育（学校における全教育活動に対応するもの）、総合的な学習、特別活動といった教科外の活動と重なっているように見える。しかし、心理健康教育は、徳育（思想政治教育）の一要素であり、徳育ほど強化された教育ではない点の特徴である。

今後、心理健康教育のハードが充実し、なおかつ人材養成が進みクラス担任がすべて基礎的な知識を理解、あるいは専門的な心理健康教育の教師が増加すると考えられる。心理健康教育の意義が再度問われるべきだと思われる。

本稿は、アジア教育学会第10回大会（2015年10月24日土曜日 於：有明教育芸術短期大学）における発表原稿に加筆修正をしたものである。